

167

2011
June

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

同志社キリスト教主義教育の原点 キリスト教文化センターは今

●同志社人訪問

株式会社 福寿園 取締役副社長・日本青年会議所会頭

福井 正興さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

同志社キリスト教主義教育の原点 キリスト教文化センターは今

2

ゼミ探訪 学びの時間

7

心理学部 田中 あゆみ ゼミ

同志社の研究は今

9

メディカルイメージング研究センター 井上 望 生命医科学部教授

大学の講義をひと足早く体験 高校生のための「大学入学準備講座」

11

データでみる同大生の2010年度就職戦線

13

2011年度 大学予算について

15

CAMPUS NEWS

17

同志社総長賞表彰式／文化系公認団体祝賀会および表彰式／2010年度体育会表彰式／2010年度 同志社ローム記念館大賞発表会開催／同志社大学の募金事業／第39回 Neesima Room企画展／新任教員紹介／本学教員執筆図書紹介

INTERVIEW ～同志社人訪問～

20

株式会社 福寿園 取締役副社長・日本青年会議所会頭 福井正興さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

23

・星加 精二郎さん(2004年 経済学部卒業)

・迫水 祐子さん(2002年 商学部卒業)

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

27

第31回全日本学生将棋女流名人戦で初優勝～妹と一緒に歩いてきた将棋の道～
室谷 早紀さん(商学部3年次生)

表紙の情景 [寒梅軒]

クラーク記念館の北隣に建つ茶室「寒梅軒」。元々は江戸時代の末期、二条家邸宅に造られたと見られている。女学校用地として、新島襄が二条邸敷地の一部を買い入れたのが1876年のこと。1954年、老朽化などにより売却が検討されたが、それを知った茶道部OBたちが後援会を組織し、募った移築費を同志社に寄付したという逸話が残っている。その年に現在の図書館中央部に移築された茶室は、梅を好んだ新島にちなみ「寒梅軒」と命名された。1968年に再度の移築で現在の位置に納まってからも、ひっそりと同志社の歩みを見守り続けている。

同志社キリスト教主義教育の原点 キリスト教文化センターは今

同志社大学の教育理念の1つに「キリスト教主義」

がある。「一国の良心」ともいうべき人物を養成するために、「精神と品行を陶冶する活力を身につけ、知識の修得だけでなく、良心の涵養を促す」ことが、その主旨だ。キリスト教系の大学ではあっても、学生にその宗教的価値観を押し付けるのではなく、あくまでもキリスト教の正しい理解を通して、1人ひとりの世界観・価値観を豊かに形成していくことを基本としている。そうした考えから、大学の中心にあって、学生のみならず教員、職員、そして地域の市民に対して、様々な出会いを提供する「人間の広場」となることを使命としているのが、キリスト教文化センターである。キリスト教主義教育の意義と併せ、今出川、京田辺両キャンパスにある同センターの今に焦点を当てた。

他のキリスト教系大学とは違う 同志社大学のオリジナリティ

原 ●キリスト教文化センターを語る前に、同志社とキリスト教についてお話しておきましょう。同じキリスト教系の大学でも関西学院や青山学院、立教などと同志社は明らかに違いがあります。その違いとは、他の大学が外国からやってきた宣教師によってキリスト教を広めることを目的に建てられたのに対して、同志社は新島襄という日本人が建て、歴代学長も宣教師ではないという点です。新島自身は牧師であり宣教師でしたから、アメリカの宣教師団体から寄付を受けて同志社をつくりましたが、それでもなお日本人の学校であり、学生自身にもその意識は強くありました。しかも、同志社は神学部を起源としてではなく、同志社英学校、リベラルアーツの学校として始まりました。新島が伝えようとしたキリスト教主義は、それを神学部のみが担うのではなく、すべての学部・学科でキリスト教をしつかり踏まえて学ぶことなのです。

原 ●キリスト教文化センターを語る前に、同志社とキリスト教についてお話しておきましょう。同じキリスト教系の大学でも関西学院や青山学院、立教などと同志社は明らかに違いがあります。その違いとは、他の大学が外国からやってきた宣教師によってキリスト教を広めることを目的に建てられたのに対して、同志社は新島襄という日本人が建て、歴代学長も宣教師ではないという点です。新島自身は牧師であり宣教師でしたから、アメリカの宣教師団体から寄付を受けて同志社をつくりましたが、それでもなお日本人の学校であり、学生自身にもその意識は強くありました。しかも、同志社は神学部を起源としてではなく、同志社英学校、リベラルアーツの学校として始まりました。新島が伝えようとしたキリスト教主義は、それを神学部のみが担うのではなく、すべての学部・学科でキリスト教をしつかり踏まえて学ぶことなのです。

原 ●4年前に全学共通教養教育センターが発足して、その中でキリスト教文化センターや神学部による科目が全学部の学生に提供されるようになりました。またオンラインプログラムでは、手話や点訳といったとりわけ社会福祉と関係が深い講座を提

原 誠

【キリスト教文化センター所長・
神学部教授】

供しています。学生が様々な社会的問題に目を開いていくようにしようというのがキリスト教文化センターの使命であり、その出発点にチャペル・アワーがあります。

原 ●キリスト教文化センターには牧師だけではなく、多様な業界の方々をお呼びしてメッセージをいただいています。内容をまとめた冊子も含め、学生からは好評や共感の声を耳にします。しかし残念なのは、参加人数が多いとは言えないことです。原 ●その点は私たちももっと努力しなくてはならないと思っています。同志社では、水曜日の2講時をチャペル・アワーに当てていますが、授業のある時間帯ですから、どうしても多くの参加は望めません。そこで去年の春から、京田辺では金曜日にランチ

タイム・チャペル・アワーを行うようにしています。

学生支援センター、カウンセリングセンターとのトライアングル

原 ●今、学生には、不安を抱え何らかのよりどころを探している人がとても多いと感じます。自分の悩みについて考えたり、誰かと共有できる場としても、キリスト教文化センターが必要とされる場面があると思います。

原 ●確かに様々な課題を抱える学生がいます。学生支援センターやカウンセリングセンターに頼る場合もあるでしょうが、場合によってはキリスト教文化センターでこそ話を聞いてあげられるケースもあるはずです。特に京田辺には本学卒業生の牧師が週に数日はいますし、そういう学生ときちんと向き合いたいというのが私たちの願いです。

同志社のキリスト教主義と キリスト教文化センターの意義を語る

同志社キリスト教主義教育の原点 キリスト教文化センターは今



メンセンディーク ●中には、その問題がカウセンシングを受けるまでもないと考えている学生も多いと思います。日本社会にはカウセンシングへのアレルギイのようなものもありますし。そこまで苦しんでいない、悩んでいないのだけれど少し話をしたい、という学生に対応するためにも、キリスト教文化、学生支援、カウセンシングの3センターで連携プレーができるといいですね。

原 ●その3センターがトライアングルを組み、テーマや問題によって、情報共有し対応を行うことが理想的だと思います。今の学

生は一見華やかに見えますが、病んでいる人も多いと思います。その解決のための駆け込み寺として、キリスト教文化センターが機能すべきなのですが、それにはやはりキリスト教文化センターがキャンパスライフの上でしっかりと位置づけられていなくてはなりません。

メンセンディーク ●現実には、キリスト教文化センターのある場所すら知らない学生も多くいます。

原 ●たとえばクラーク記念館の建物は目にしていても、中に入ってくる学生は少ない。私たちが今話しているこのラウンジも、文化財保護のため学生に開放できていないのが現状ですので、仕方ないことかもしれないかもしれませんが、私たちとしては、もっと自由に、気軽にセンターを訪れてほしいと思っています。

メンセンディーク ●学生支援センターが毎年、函館キャンパスを行っているように、キリスト教文化センターでは熊本キャンパス、安中キャンパスを続けています。こういった行事も、同志社大学のオリジナルティとして学生たちに知ってもらいたいですね。

原 ●私が常に思うのは、同志社の学生にしっかりとキリスト教主義が根付くには、ハードとシステムとソフトが必要だということです。ハードは礼拝堂などの宗教施設や学生が自由に集える場所、システムは教育学面などの措置や配慮、ソフトはやはりそれに関わるマンパワーの充足です。

メンセンディーク ●他のキリスト教系大学

に比べ、同志社はキリスト教に関心を持つて取り組む教職員が少ないように感じます。個々人に委ねられる部分が多いのも同志社の風土ですが、その現状が学生に影響を及ぼしているのではないかと心配しています。学生の中には同志社がキリスト教主義の大学だと知らずに卒業する人すらいるのは、悲しい限りです。

キリスト教文化センターは 同志社大学の貴重な資源

原 ●学生に認識される、期待されるキリスト教文化センターでありたいというのは、私たちの一貫した願いです。同志社大学に入学した以上、同志社の学生として新島もキリスト教も知ってほしいというスタンスはずっと保ち続けてきましたし、それは今後も変わりません。キリスト教をなくせば同志社が同志社ではなくなります。学生には、卒業するまでに最低限何度かはチャペル・アワーに足を運んでほしい。そこで自分

の一生を左右するような言葉に出合うことがあり得ます。人生という湖に落ちた小石が波紋を呼ぶ、そういうチャンスは色々なところにありますから、目を開けて、耳を澄まして、学生生活を送ってほしいですね。

メンセンディーク ●そもそも大学を有意義なものにするかどうかは、学生の主体性にかかっています。大学には資源がたくさんありますが、それを活かす機会を発見するのは、学生自身です。キリスト教文化センターも同志社の1つの資源ですから、様々なプログラムに積極的に参加して機会をつかむ努力をしてほしい。ぜひ気軽にドアを開けて中をのぞいてみてほしいと思います。

原 ●入学式、卒業式・学位授与式、同志社ではそのどれもが礼拝です。学生を礼拝で迎え入れて礼拝で送り出すことは同志社の「命」なのです。そのことを、ぜひ心に留めてほしいものですね。



Martha MENSENDIEK

(マーサ・メンセンディーク)

【社会学部社会福祉学科准教授】

そこは、もうひとつの成長の場

キリスト教文化センターでは創立者・新島襄の志を体感し、キリスト教の深い精神性に触れるための様々なプログラムを実施している。大学生活においても、また卒業後の人生においても、糧としてそこで得るものは大きい。実際にプログラムに参加し、自身の成長を実感した学生に、その意義と価値を聞いた。

キリスト教文化センターは同志社の一粒の種

3 年次編入で他大学から同志社大学に入学し、大学の運営にも興味があったので、キリスト教文化センターの学生スタッフになりました。1 年間の経験で思うのは、自分自身いろんなチャレンジができたことです。たとえば、最も多く担当したのがチャペル・アワーの司会。何十人かの参加者を前に進行役を務めるなど、これまでの自分からは想像もできないことでした。チャペル・アワーは礼拝形式で行われま

すが、誰でも気軽に参加可能。学内外から多様な分野の方々を招いており、在日外国人の問題に取り組む人、病院で終末医療に携わる人など、様々なフィールドで活躍している方の話を聞くことができます。通常の授業では得られない色々な視点を知ることができ、同志社の学生として深みが出て来るように感じます。実に貴重な機会ですから、学生の皆さんにも、在学中に一度は参加してもらいたいと思います。時には音楽礼

渡邊 大輝 さん
【神学部4年次生】



拝という形式もあって、先生がバンドを組んで演奏したりもしますから、堅苦しいものではないですよ。

いわば、キリスト教文化センターは同志社の一粒の種なのではないでしょうか。大きく目立つことはなくても、同志社がキリスト教を基盤に始まり、受け継いできた歴史を伝え、一人ひとりの中にその精神性を育んでいく。キリスト教主義の大学だと知らない学生がいたとしても、そこでその学生の能力が培われ果立っていくのなら、キリスト教が持つ宗教的な要請にもなっています。大学を知るという意味で、キリスト教についても少しでも知ることができたら、学生生活がより意義深くなるのではと思います。

学生生活に心の支えとなるものができた

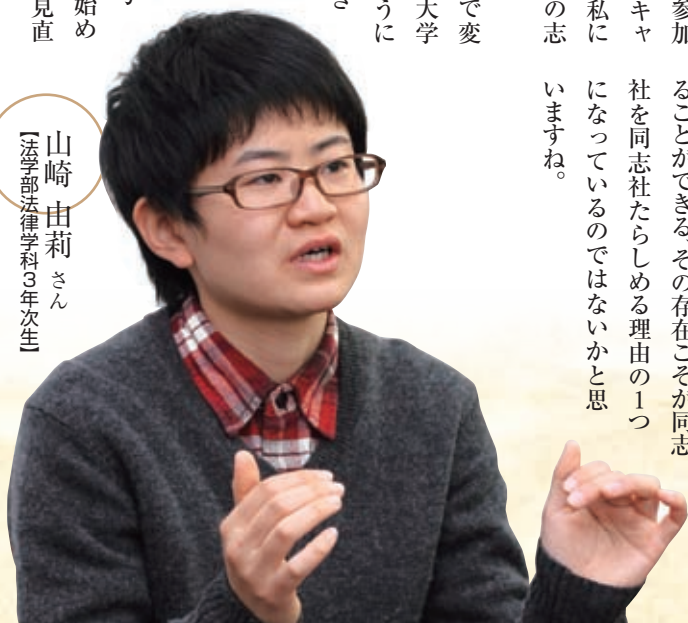
昨年9月「Doshisha Spirit Tour」の安中キャンプに参加しました。群馬県の安中では、安中藩の武士の子として生まれた新島襄のルーツとなる土地です。キャンプは2泊3日の旅程で、東京の安中藩江戸藩邸跡、安中の新島家旧邸、安中教会、新島学園など、同志社にゆかりのある場所と人物を訪ねました。キリスト教文化センターの存在は知っていましたが、プログラムに参加したのも、実際に足を運んだのも安中キャンプの申し込みの時から初めて。そんな私にとって、キャンプはキリスト教や新島の志に直接触れる貴重な経験でした。

安中キャンプ以降、自分自身の中で変わったのは、他の大学ではなく同志社大学に來たことの意味を改めて考えるようになったことです。もともと新島の生き方に憧れて入学を志したのですが、キャンプに行くまでは日々の生活に追われて忘れてしまっていました。今この同志社でしかできない、感じられないことがありますし、この与えられた時間を大切にしようと考え始めました。自分が「今どこにいるのか」を見直

す、いいきっかけになったと思います。

私は先輩の誘いで安中キャンプに参加しましたが、きっかけはともかく実に有意義な時間を過ごせましたし、これからの学生生活に自分の心の中の支えになるようなものができた気がしますので、知らないまままで卒業してしまわなくてよかったと思います。多忙でなかなか他のプログラムに参加できませんが、キリスト教文化センターがあることで、新島の志や思いを伝えることができる、その存在こそが同志社を同志社たらしめる理由の1つになっているのではないかと思いますね。

山崎 由莉 さん
【法学部法律学科3年次生】



キリスト教文化センター

<http://www.christian-center.jp/>

● 京田辺校地事務室 ●



TEL: (0774) 65-7370 FAX: (0774) 65-7374

jt-kirib@mail.doshisha.ac.jp

【事務室開室時間】

月～金 9:00～11:30、12:30～17:00

※休暇期間中などは変更される場合があります。

● 今出川校地事務室 ●



TEL: (075) 251-3320 FAX: (075) 251-3085

ji-kirib@mail.doshisha.ac.jp

【事務室開室時間】

月～金 9:00～11:30、12:30～17:00

※休暇期間中などは変更される場合があります。

同志社京田辺 クリスマス燭火讃美礼拝

同志社の理念である「キリスト教主義教育」を広く理解してもらうために、讃美歌奏楽、キリスト降誕の聖書劇そしてメッセージを中心とした礼拝を、京田辺校地の新島記念講堂で行っています。特に、地域に根ざした大学として市民の皆さんとの交流を深めたいとの願いもあり、京田辺市の合唱団の協力を得て、学生聖歌隊やハンドベル・クワイアとともに中心的役割を担っていただいています。広く世間で目にする華やかなイベントとは異なり、クリスマスの持つ意味とともに分かちあう礼拝です。皆さんの参加をお待ちしています。

【2011年度】12月10日(土)



Doshisha Spirit Week

皆さん、「建学の精神」をご存知ですか? 新島襄は、なぜ大学を創ろうとしたのか。長い歴史を誇る同志社大学において、ややもすると見失われがちなこの事について広く理解してもらうため、2003年から毎年開催しているのがこのDoshisha Spirit Weekです。期間中には、「建学の精神」「新島襄の教育理念」に造詣の深い方々による講演やキャンパスツアーなどを行い、さまざまな角度から同志社を見つめなおす機会を設けています。新たな発見があるかもしれません。ぜひとも参加してみてください。

【2011年度】春: 5月30日(月)～6月4日(土)

秋: 10月31日(月)～11月5日(土)



チャペル・アワー

同志社大学は、設立の旨意に謳われているように、一国の良心となる人物をキリスト教精神によって育んできました。学内でそれを最も身近に感じられるチャペル・アワーでは、オルガンの響きに心を静め、ともに祈り、讃美歌を歌い、聖書のことばに耳を傾けます。「奨励」として学内外の様々な分野の方によって語られるメッセージは、私たちが日々を生きるうえでの道標になるかもしれません。チャペル・アワーにはどなたでも自由に参加することができますので、ぜひとも足を運んでみてください。

【今出川校地】火曜: 毎週火曜日 17:30～

水曜: 毎週水曜日 10:45～

【京田辺校地】水曜: 毎週水曜日 10:45～

金曜ランチタイム:

毎週金曜日 12:40～13:05



Center for Christian Culture



心理学部

田中 あゆみゼミ

心理学を1つの要素として 充実した大学生活を送ってほしい

2009年4月、文学部心理学科を改組、独立した学部として誕生した心理学部。新たに「神経・行動心理学」「臨床・社会心理学」「発達・教育心理学」の3つの履修コースが設定され、カリキュラムも大幅に組み換えられた。定員は文学部時代の70人から150人に増え、教員数は倍増。8つだったゼミの数も、今は16に増えている。だが、伝統の少人数教育と実験や観察調査を通して客観的データを積み上げていく演習重視の実践型授業が特色であることに変わりはない。

今回訪れたのは田中あゆみ准教授のゼミ。先生の専攻テーマはヒューマン・モチベーションだ。「人間の行動がどういった理由で起こるのか、なぜ変化していくのか、人のモチベーションについて研究・説明していく分野です。人間の行動の理由を説明するわけですから、どんな研究内容でもほとんどがテーマに合致します」。よって、何を研究テーマに選ぶかはそれぞれの自由だ。しかも「できるだけ自分の好きなテーマ、やりたいと思った内容で研究を進めてほしいので、私の方から特定のテーマ

を勧めることはありません。基本的に自分で考え、自分の意志で決めてほしい」と、田中先生は話す。

言うまでもなくゼミの目標は、卒業論文の作成。3年次春学期の終わりに所属するゼミを決め、正式なスタートは秋学期から。その半年間でまず、基本となる有名な

論文を1つ読み、次に自分の興味に沿って文献検索を進め、その結果を発表する。4年次ではそこから、先行研究をどう展開させるかを考え、ゼミ生1人ひとりが自身の研究テーマを絞り込む。それに沿って春学期には、学生を対象にしたアンケート調査や、被験者の協力を募って行う実験を通し

田中 あゆみ【心理学部准教授】



て、データを収集。夏休みも利用してそのデータを分析し、秋学期からはゼミでの発表や先生との個人面談を経て、最終的に卒論執筆へ向かう。



心理学部のゼミにおいては、読む論文は

英語のものが中心。心理学の先進国は英語圏の国々であり、優れた論文の多くが英語で書かれているためだ。それらを読みこなすことで、研究の深みや広がりが大き

く違ってくる。また、論文を読むことで身に付く英語の読解能力のほかに、心理学の勉強を通じて得られるものも多く、例えば統計解析やコンピュータを使った高度な処理が欠かせないため、当然そのスキルは上がる。さらに、より専門的な研究のため、大学院へ進学する学生も少なくない。毎年、全体の2〜3割の学生が、同志社大学だけでなく、海外を含めた他大学の大学院へ進んでいる。「心理学部の学生は、みんなおしなべて優秀ですよ」という先生の言葉は、こういった点が根拠となっている。

田中ゼミに集まった学生は5人(内1人、岡田梨沙さんは欠席)。2008年度に入学してきた彼女たちは、文学部心理学科の卒業生として巣立っていく最後の学生だ。なぜ心理学を学ぼうと決めたのか、

それぞれの思いを聞いてみた。

越智志織さんは「特に明確な理由は無いのですが、『物事がどうしてそうなったのか』に昔から興味があつて、進路選択でもなぜか他の学部にはまったく関心がなかったのです」と言う。「英語にも興味があつたのですが、英語はその気になればどこでも勉強できる反面、心理学は大学でしか学べないと思つて。実際に学んでみて、心理学が日々の生活にリンクしていることが多く、とても面白いです」と話すのは小宮麻実さん。田中伶奈さんは「中学、高校の総合学習で心理学に関係するものを選択した流れで、大学も心理学を学ぶことを前提に受験しました。自分は心理学を学ぶものという思い込みでここまでできた感じですよ」と、その答えも心理学的だ。

田中ゼミで唯一の男子学生、津山佳祐さんが心理学を選んだのは、臨床心理士になりたいと思つたことがきっかけだと言ふ。「しかし実際に入学して、臨床心理士の資格を得るには、大学院への進学が必要

だと初めて知りました。矛盾するようですが、その進路を選択することによって、そこから先の道が臨床心理士だけに絞られてしまします。そこで方向転換をして、今は心理学を役立てられる仕事に就きたいと思つています」。

TAとして田中先生をサポートする博士課程(前期)2年次生の浅野高志さんは、スクールカウンセラーを目指して心理学を選び、津山さんとは逆にそのまま大学院進学を決めた。ただ現実には、スクールカウンセラーのみで経済的に自立して生活するのは難しいのです。今は心理学を教育の面で生かしていく意味から、行政の教育委員会などの方面から、教育現場をサポートしてあげたいと



と考えています」と、大学院修了後の進路を語る。

心理学を学んだ学生の進路や、どのような職業が適しているのかについて、田中先生は「カウンセラーなどの臨床の仕事もありますが、そういった進路がすべてではありません。心理学はあらゆる職業に適用できます」と言う。

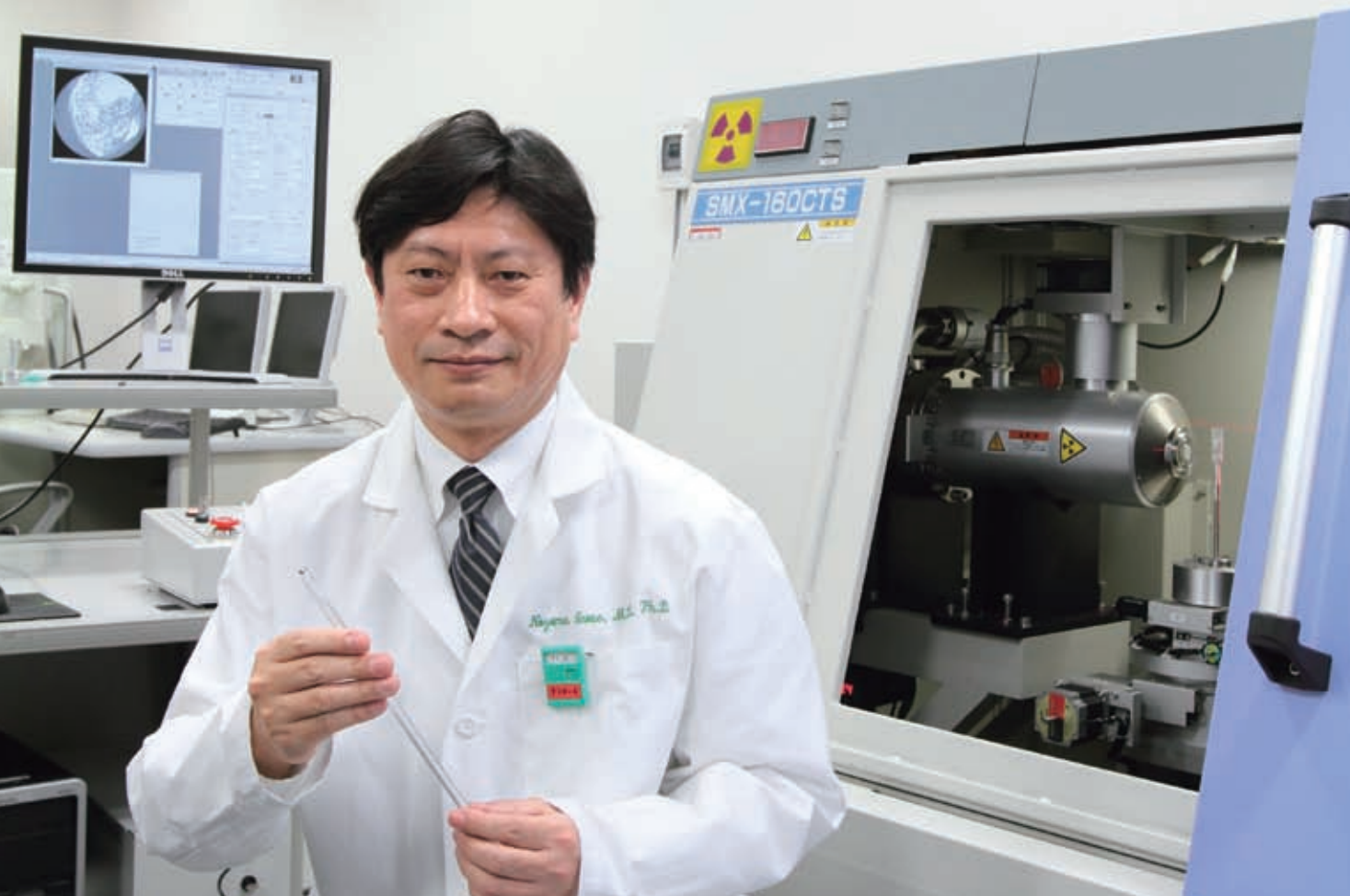


「客観的にデータを集め、分析考察するという作業を4年間続けていますので、突発的な事象にも冷静に対処できるでしょう。また多様かつ大量の情報に対しても、その真偽についてや、どのように得られたものなのか、常に考える視点を持っています。ですから、どんな職業に就いても、心理学は活きるはずですよ」。

そして、こうも言う。「学生たちに望むのは、もちろん心理学を1つの大きな要素としながらも、トータルで充実した大学生活を過ごしてほしいということ。卒業後は、その充実ぶりを問われるように思います。そして心理学の知識や経験に限らず、4年間で得たものを社会で発揮してほしいですね」。

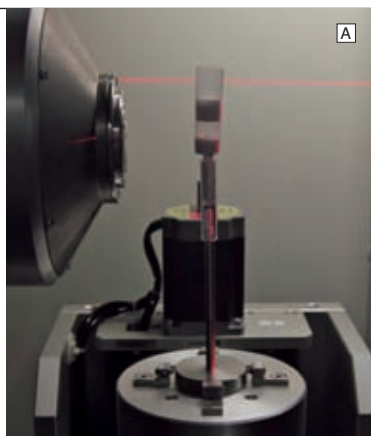
日米の技術・人材交流、多角的 연구를推進する医用画像工学の国際研究拠点

メディカルイメージング——医用画像技術の研究・開発を通じて医学・医療技術の発展・高度化に貢献することを目指し、日米を機軸とした技術・人材交流や多角的研究を推し進める国際研究拠点として、2008年3月、「メディカルイメージング研究センター」は誕生した。そこでは米国カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)との密接な連携を基盤に、再生組織の顕微鏡画像の組織学的・定量的解析とその手法の開発、医用画像を用いた生体器官の3次元計測とその手法の開発、医用画像ベースのバイオメカニクス手法の開発を中心とした研究を進めている。その技術的成果がすでに実際の臨床医療分野で実用化されつつあり、多方面から注目を集める同センターの意義や研究内容について、センター長として活動を主導する生命医科学部医工学科の井上望教授に伺った。



メディカルイメージング研究センターは、設立の経緯に関して、同志社大学の他の研究センターとはやや異なった側面を持っています。そこには当センターの研究員で本学の客員教授でもある、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)医学部のマスタ・コウイチ教授が大きく関わっております。私がアメリカのジョーンズホプキンス大学の整形外科に在籍していた1992～2003年の同じ時期に、私と同様に日本で整形外科医として経歴を積んだ後に渡米し、シカゴのラッシュ大学に在籍されていたのがマスタ教授です。同じ整形外科領域で、私はバイオメカニクスの研究、マスタ教授は生化学の分野で軟骨や脊椎の研究に携わっておられました。2003年にマスタ教授に誘われて私がラッシュ大学に移ってから、しばらく共に研究を行っていたのですが、翌年に私が現職に就任。3年前の2008年にマスタ教授がUCSDに移籍された際、(有)小財家興産の スポンサーを受け、3,000万円の寄付金を得たことから、従来より温めていた、UCSDと同志社大学での共同研究という構想が実現することになりました。寄付金を原資としてUCSDにレーザー共焦点顕微鏡を備えた共同施設を設置し、その優れた設備を活用した共同研究のための本学側の組織として、当センターを立ち上げたのです。2009年1月に本学の生命医科学部、理工学部、スポーツ健康科学部と、UCSD

A: X線透過試験法により画像の3次元立体化を可能にした島津製作所特注のマイクロフォーカスX線CTシステム。ナノレベルまで撮影できる最先端の機器は、現在、同志社大学を含めて国内に7台しかない。



リサーチセンターの開所式を執り行い、レーザー共焦点顕微鏡を用いた再生組織顕微画像の組織学的解析および定量的解析手法の開発を、当センターとUCSD-Doshishaメディカルイメージングリサーチセンターとの間でスタートしています。

様々な疾患の病因の解明や再生医学を用いた新しい治療法の開発に、UCSD-Doshishaメディカルイメージングリサーチセンターに設置したレーザー共焦点顕微鏡が重要な役割を果たしています。この顕微鏡は、高解像度のイメージと3次元情報の再構築を可能にしたもので、イメージを微小なポイントごとに撮影し、それをコンピュータで再構築することにより、焦点距

離が定まりにくい厚みのある試料であつてもクリアな像を得ることができるというものです。これに、X線透過試験法によりナノレベルまで撮影可能な画像を3次元で立体化する、当センターのマイクロフォーカスX線CTシステムを融合することによって、私たちはこれまで誰も実現したことのない新しい3次元計測のシステムを構築しているのです。

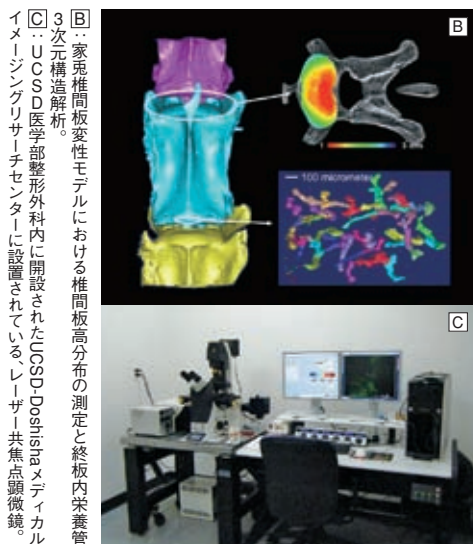
現在、当センターでは、一般的に臨床で使われているCTやMRIで撮影した画像をもとに、生体内の様々な器官を3次元計測する際の、計測手法に関わる新しいプログラムの開発も行っています。1990年代初期、アメリカでは冷凍した人間の死体を0.2〜5ミリ間隔で削っていく、その断面を撮影したデータを集積することで、人体の精巧な立体的構造をつくる研究が行われていました。私自身もジョンズホプキンス大学でそのプロジェクトに参画していましたが、

現在では生体で、しかも特別な機器ではなく、一般的に医療現場で使用されているCTやMRIで撮影した画像から、3次元の極めて精巧な立体的構造を得ることができるようになっていきます。たとえば、脊椎の動きを立体的に計測するなら、通常は静止した状態でCTやMRI撮影したものに、動きを加え様々な異なるポジションで撮影した画像を合わせて3次元のモデルをつくり、脊椎の動きを正確に測定します。これも1ミリ以下、0.1ミリ単位の精度の解析方法で、私たちが開発して可能にしました。この

解析により、従来の画像診断ではできなかった運動器の機能的診断を可能にしました。また、骨の画像を0.5ミリずつバーチャルに削っていくことで、関節の下の方の骨密度の分布を観察し、その変化を解析することもできます。骨と骨の間にある軟骨の摩擦が進行すると、変形性関節症が起こり関節の痛みが生じるのですが、軟骨の摩擦による関節の隙間の変化と関節下の骨密度を同時に3次元的に解析することで、その状態変化を高精度で把握できるのです。臨床に携わる整形外科医にとって非常に重要な意味を持つこの計測手法も、これまで誰も開発していません。

これらの研究はいずれも、アメリカのUCSD-Doshishaメディカルイメージングリサーチセンターと当センターとの緊密な連携が基盤となっています。そして、そのUCSDとの関係において、共同研究とともに当センターが担っている重要な役割についても言及しておかなければなりません。それは、私たち研究者の交流のみならず、日米の学生同士が研究交流を行うパイプ役となっていることです。UCSDではNational Science Foundationの援助を得て、環太平洋地域の色々な大学に学部生を派遣するプログラムを行っています。現在、日本の受け入れ先の1つとなっているのが同志社大学なのです。

多数の応募者からトップクラスの優秀な学生3〜4名を選び、生命医科学部医工学科が受け入れ先となり、約3カ月間当センターで研究を行ってもらうことになっています。最先端の機器を含め、優れた研究環境を提供できていると自負しています。本学の学生にも非常によい影響があります。また、本学からも、生命医科学研究科の学生をUCSD-Doshishaメディカルイメージングリサーチセンターに派遣しています。こういった研究交流を通して、優秀な研究者となる人材を育て、輩出していくことも当センターの重要な機能なのです。



B: 家兎椎間板変性モデルにおける椎間板高分布の測定と終板内栄養管3次元構造解析。
C: UCSD医学部整形外科内に開設されたUCSD-Doshishaメディカルイメージングリサーチセンターに設置されているレーザー共焦点顕微鏡。



大学の講義をひと足早く体験 高校生のための「大学入学準備講座」

同志社大学では大学で要求される学習の量と質を知ってもらうことを目的に、大学進学を志す高校生を対象にした「大学入学準備講座」を毎年開講している。9〜12月の土曜日の午後、本学の様々な学部・学科、センターの教員が、それぞれの専門分野から高校生にも関心の高そうなテーマを設定し、実際の大学の講義と同じ形式で授業を行う。高校1・2年生が将来大学に進学する際の志望学部・学科選択の参考にもなる。

昨年12月4日に行われた法学部政治学科と社会学部メディア学科の講座では、多くの高校生が高校の授業とはひと味違う講義を体験した。

■EUの歴史と現状、目指す姿とは

至誠館地下3番教室で行われた法学部政治学科鷺江義勝教授の講義は、「EUとは何か―EC―EU―欧州合衆国?―」がテーマ。EU―欧州連合について、高校の教科書にはごくわずかな記述しかなく、高校生には比較的なじみの薄いテーマだったにもかかわらず、教室には席の大半を埋める人数が集まった。

「EUは国際組織ですが、国連などとは異なります。どう違うのか、その特殊性を明らかにして、大まかにEUのイメージをつかんでもらえればいいと思います」と語り始めた鷺江教授。配られたレジュメをもとに、講義はまずEUの歴史と仕組みから始まり、現在、加盟国が27カ国を数えるまでになったその拡大の過程、国際関係の中の位置づけなどについてわかりやすい解説が行われた。

特に高校生の関心を引いていたのは、第2次大戦後の東西冷戦下における国際関係と、その後の民主化運動を契機とする冷戦の崩壊で、大きな共同体となっていたEUの拡大の過程を説明した場面。

「第2次大戦後の国際関係は西側のアメリカ、東側のソ連という2大国による冷戦という形で、世界が二極化していました。例えて言うときくぎの抗争みたいなもので、一方の親分がアメリカ、もう一方の親分がソ連。それぞれにたくさんの構成員がいて、すべてが明確に2つに分かれており、

一方に属する国が他方に移動するというようなことはまったくありませんでした。ところが、1990

年に東欧で民主化革命の火の手が上がり、共産主義政権が次々に倒れ、やがてソ連もなくなりました。

一方の大きな組が資金繰りに行き詰まって解散したわけです。ソ連組がなくなると傘下にいた構成員は不安になり、残ったアメリカ組の方へ移ってきました。そうしてEUは

拡大を始め、冷戦崩壊後は東側に広がっていきます。ポーランドやハンガリー、ブルガリア、ルーマニアといった、かつてソ連組にいた東欧の国々がEUに加盟して、今ではほぼヨーロッパ全域にまたがる大きな共同体になっています」

また、鷺江教授は独立当時13の州が集まって合衆国をつくったアメリカを典型的な連邦国家として例示し、現在のEUは国連のように加盟国が個別に一定の権限を



鷺江義勝

【法学部政治学科教授】

持つ国際組織と、国家の本質的な機能である経済の統一性、外交・安全保障、国内の治安維持を中央政府が受け持ち、それ以外の権限は州に委譲された連邦国家の中間に位置すると説明。将来的には各加盟国が下



イツ州、フランス州など州の形をとり、欧州合衆国、欧州連邦となっていくビジョンを紹介した。

さらに、日本の政治体制、内閣、衆議院参議院など対比してEUの組織について語り、「EUは大きな実験と言われています。ユーロという新しい通貨を使っていますが、国家が自国の通貨を放棄して別の通貨を使うということは大きな決断です。経済統合はかなりの段階まで進んでおり、今は欧州連邦に向かってステップアップしているところ。EUが今後どのように発展していくか、皆さんも注目してください」と結んだ。

■苦悩し続けた

”天才”手塚治虫に学ぶこと

続いて、社会学部メディア学科の竹内長武教授による「手塚治虫の生き方―その苦悩の生涯―」と題した講義が行われた。竹

内教授は自身がかつて漫画家志望で、集英社少年ジャンプの手塚賞で2度、最終選考まで残った経歴を持つ。講義も黒板にスラスラと漫画の主人公を描いたりしながら、和やかな雰囲気の中で進められた。

「漫画の神様」と呼ばれた手塚治虫は戦後のストーリー漫画の立役者であり、常に第一線で活躍してきたかに見えるが、読者からの人気を常に意識し、時にはノローゼに罹るなど、多くの苦悩に立ち向かいながら漫画を描き続けた。その生き方から逆境にめげず自らの夢を叶えようとする、ひとりの人間の姿勢と精神を学ぶことが、この講義のポイントであった。

竹内教授は、テキストに自身の著作である『ミネルヴァ日本評伝選 手塚治虫―アーチストになるな―』を使用。手塚治虫の生い立ち、幼少期から学生時代の生活、漫画家としてのデビューしてからの創作活動を、手塚を取り巻く環境や、様々な人びととの関わりを交えて紹介した。

グロテスクな素材、妖しい性、人間不信、否定的文明観、終末世界、悲劇的結末など、手塚は従来の子ども漫画の枠を超えた物語世界を描写した。その人生は自身の学歴コンプレック

スに始まり、漫画家の主体性が編集者や雑誌の方向性に左右される現実、悪書追放運動による理不尽な非難、劇画の台頭に伴う自作の評判の悪化などに翻弄され、ジレンマから大勢迎合に至らなければならなかった、苦難と懊悩の足跡でもある。流行を極端に気にしながらも、たゆまぬ努力を続けた手塚に関する解説には、今も名作として読み継がれている手塚漫画と、神様「手塚治虫のイメージを覆すほどの新鮮な驚きがあった。

竹内教授は「手塚治虫は天才ではありませんが、すべてオリジナルで新しいものをつくり出したわけではありません。鉄腕アトムがフランケンシュタインを下地にしているように、過去にあるいろんな出来合いのものをつなぎ張り出しながら、それを新しい意

匠で包んで出していたのが手塚漫画なのです。ある意味、手塚治虫は妥協する天才、現実対応にすぐれた作家だったと言えるかもしれません」と評した。

両方の講義を通して聴いていた京都府立北稜高校1年の佐伯竜紀君は「大学の授業がどんなものか興味があつて来たのですが、EUの講義はわかりやすくとても理解が深まりました。大学で漫画についての授業があることにも驚きました」と、受講した感想を語ってくれた。

「高校までの授業は、いわば栄養のバランスが行き届き、毎日食べていれば確実に成長するお母さんの手料理。大学の授業は好きなものを取ってそれだけを食べ続けてもいいバイキング料理。栄養は偏るが、その要素はより深く身につく」と鷺江教授。大学入学準備講座で、バラエティーにあふれたバイキング料理をぜひ一度ご賞味いただきたい。

開講のご案内

2011年度も、9月24日・11月19日の土曜の午後、「大学入学準備講座」を全16講座開講します。

【受講対象者】

- ・主に高校1・2年生の方が対象ですが、もちろん高校3年生の方の受講も歓迎します。
- ・受講者のご父母の同伴も可能です。

・大学における講義の実態を知り、高校での指導に役立てていただく意味で、高校の先生方にも講義を聴いていただけます。

【受講料】無料

【申し込み受付】8月29日(月)～
※講義内容や申し込み方法等の詳細は、教育開発センターホームページの「大学入学準備講座」からご確認ください。

大学入学準備講座のページ

<http://www.doshisha.ac.jp/academics/institute/youiku/kodaitenkei/koza.php>



竹内長武

【社会学部メディア学科教授】

データでみる 2010年度就職戦線

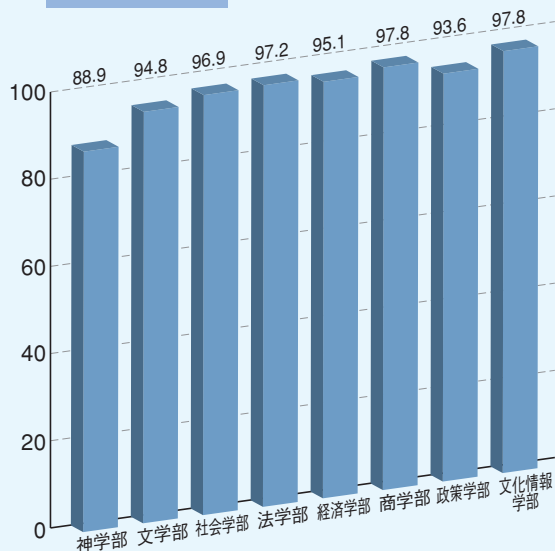
同大生の

2010年度の就職状況は、厳しい就職環境にもかかわらず就職率96.1%と高い数字となりました。その一方で、社会のニーズが多様化する中、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果をあげることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。このような変化の中で、みなさん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ(注1)**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になります。

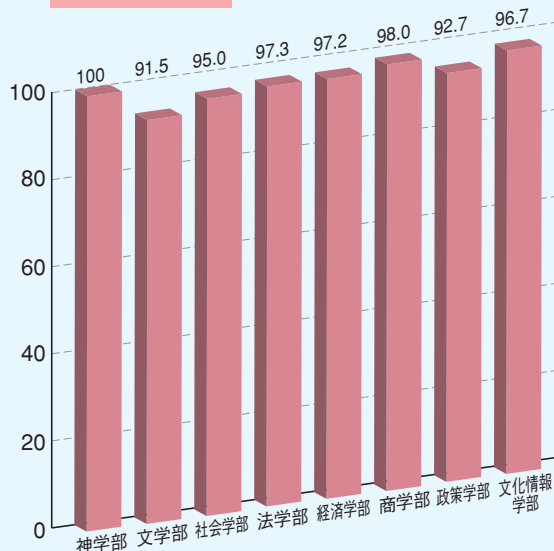
■就職率

$$\text{就職率} = \frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$$

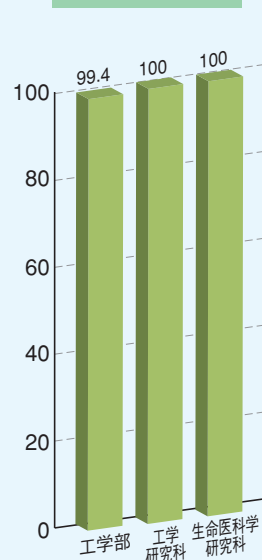
文科系学部／男子



文科系学部／女子



理工系学部・研究科



■主な就職先と人数

会社名と人数

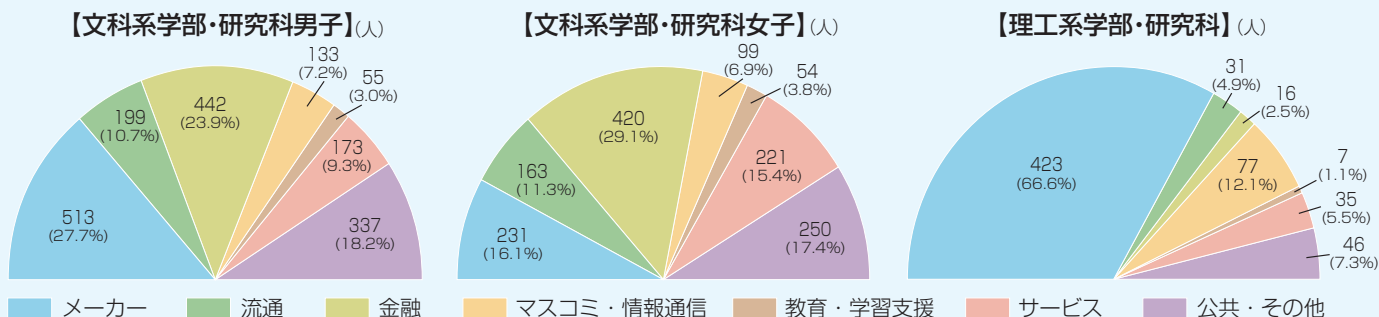
文 科 系

株式会社京都銀行	48	積水ハウス株式会社	11
株式会社三菱東京UFJ銀行	36	武田薬品工業株式会社	11
みずほフィナンシャルグループ	35	日本電信電話	10
国家公務員Ⅱ種	32	株式会社大垣共立銀行	10
株式会社三井住友銀行	31	第一生命保険株式会社	10
京都中央信用金庫	30	日本電気株式会社	10
東京海上日動火災保険株式会社	30	株式会社商工組合中央金庫	9
株式会社りそなホールディングス	26	株式会社日立製作所	9
株式会社南都銀行	26	京都市	9
日本生命保険相互会社	25	京都府	9
野村證券株式会社	25	大阪府教員	9
日興コーディアル証券株式会社	23	東京都特別区職員	9
郵便局株式会社	23	同志社大学	9
株式会社大和証券グループ本社	19	明治安田生命保険相互会社	9
株式会社滋賀銀行	16	アステラス製薬株式会社	8
国税専門官	16	オムロン株式会社	8
三井住友海上火災保険株式会社	16	タマホーム株式会社	8
アメリカンファミリー生命保険会社	15	伊藤忠商事株式会社	8
京都信用金庫	15	株式会社関西アーバン銀行	8
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	14	株式会社紀陽銀行	8
アストラゼネカ株式会社	14	株式会社損害保険ジャパン	8
三菱電機株式会社	14	株式会社百五銀行	8
株式会社ゆうちょ銀行	13	三井住友カード株式会社	8
株式会社池田泉州銀行	13	住友信託銀行株式会社	8
株式会社中国銀行	13	神戸市	8
西日本旅客鉄道株式会社	12	大阪市	8
株式会社ユニクロ	11	日本年金機構	8
株式会社ワークスアプリケーションズ	11	富士通株式会社	8
住友生命保険相互会社	11		

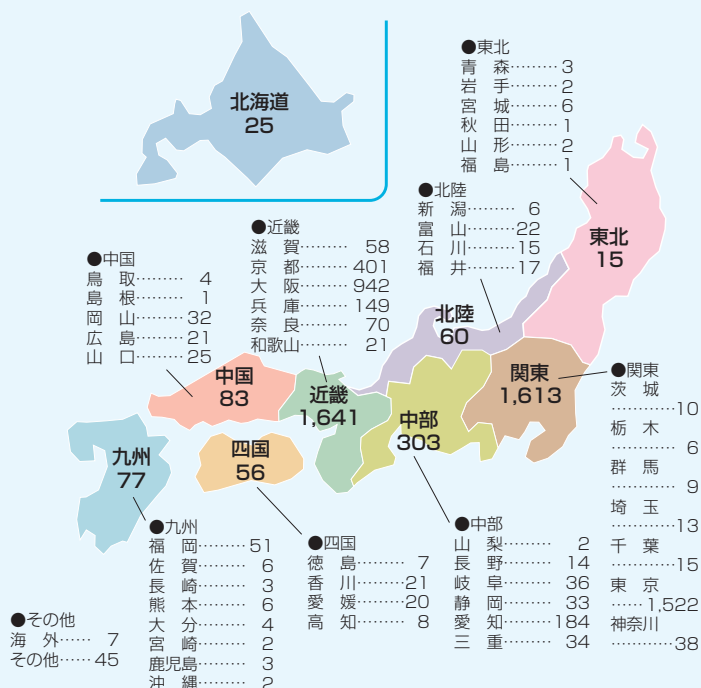
理 工 系

株式会社日立製作所	25	セイコーエプソン株式会社	3
三菱電機株式会社	10	ヤンマー株式会社	3
日本電気株式会社	8	旭硝子株式会社	3
日本電信電話	7	楽天株式会社	3
ダイキン工業株式会社	6	株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	3
トヨタ自動車株式会社	6	株式会社きんでん	3
パナソニック株式会社	6	株式会社ジェイテクト	3
株式会社ニトリ	6	株式会社ゆうちょ銀行	3
関西電力株式会社	6	株式会社ワークスアプリケーションズ	3
西日本旅客鉄道株式会社	6	株式会社神戸製鋼所	3
スズキ株式会社	5	株式会社日立ソリューションズ	3
株式会社小松製作所	5	株式会社堀場製作所	3
株式会社島津製作所	5	三菱樹脂株式会社	3
株式会社豊田自動織機	5	三菱重工業株式会社	3
富士ゼロックス株式会社	5	住友電装株式会社	3
ダイハツ工業株式会社	4	中部電力株式会社	3
パナソニック電工株式会社	4	日産自動車株式会社	3
レンゴー株式会社	4	本田技研工業株式会社	3
ローム株式会社	4		
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	4		
株式会社デンソー	4		
株式会社村田製作所	4		
株式会社東芝	4		
九州電力株式会社	4		
川崎重工業株式会社	4		
東日本旅客鉄道株式会社	4		
富士電機ホールディングス株式会社	4		
キャタピラー・ジャパン株式会社	3		
シャープ株式会社	3		

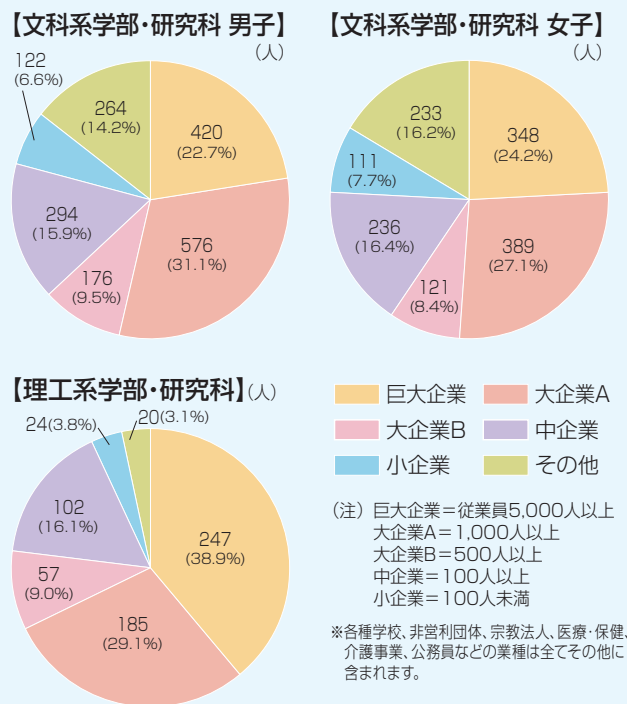
■業種別内定状況



■地区別内定状況 (人)



■従業員規模別内定状況



※データは2010年度確定数

(注1)インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を2クラス開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理論との統合をはかり、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリア支援システム「e-career」(<http://career.doshisha.ac.jp/campusweb/top.do>)でその一部を紹介していますので参考にしてください。

参加者の感想



様々な事に気づくことができ、そして考え方を考えることができた2週間でした。意識の持ち方を変えることができてとても良かったです。これからは何をすべきなのかを考え、目的を持ち、感謝の気持ちを忘れずに何事にも取り組んでいきます。

今までは何となく「最後はなんとかしてくれるだろう、誰かが決めてくれるだろう」と言ったような甘えがありましたが、今回の業務ははじめて最後まで何としても自分の力でやり遂げ、形にしなければならず、結果は全て自分の頑張りと次第ということを実感しました。この姿勢はこれからの学生生活においても大事にしていきたいと思いました。また、自分が大切にしたい会社選びの軸のようなものを固めていく上で、今回のインターンシップはとてもよい経験になったので、就職活動において様々な会社をみていく上で、今回の経験で感じたところも大事にしていきたいです。

多くの社会人の方々とコミュニケーションをとらせていただいたことによって、自らが今まで知らなかったこと、また考え方を学ばせていただいたことにより充実した実習になりました。またそのことにより「働く」ということはどういうことであるのか、社会人になるということはどういうことかを知ることができ、自分自身の知識のなさを知ることができ、これまでの意識が変化するという強烈なきっかけになりました。

社会人としての責任の重さ、会社を担う一員としての仕事の大変さといったことをこの時期に体験できたことは大きかったと思います。大学生としての日々慣れると、どうしても自分や時間に対して甘くなったりしますが、社会人になってしまえばそんなことは微塵も通用しなくなると頭では分かっていましたが、実際に疑似体験することで、その重要性をより強く認識しました。対人関係や時間の管理、そして何より自身の自立性、一朝一夕で身につくものではない以上、今のうちからそういったことに意識的に取り組んでいく必要があると痛感しました。今回学べたことを、今後控えた就職活動やその先はもちろん、日々の生活においても活かすことが今の自分に必要だと改めて認識しました。

インターンシップを通し、第一に目標設定をすることの大切さを学んだ。インターンシップ中は毎日その日の目標を設定し、それが実行できたかや、次はどうするべきかなど、考える習慣をつけた。目標もなく行動していても得るものは少ないが、目標を立て、その達成に向けてやるべきことを明確にすることで、行動の指針を確立することができた。社会に出て働かせていただくにあたっては、自分自身の目標や予定だけでなく、関係する方の予定も考慮する必要があると考える。